

表 7- 106 気分障害系の精神障害の状況 n=2,966

気分障害系	回答数	割合
確定診断有り	2	0.1%
疑い有り	46	1.6%
無し	2543	85.7%
判断困難	375	12.6%
回答数合計	2966	

⑨その他精神障害系の精神障害の状況

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、その他精神障害系の精神障害の状況について、「確定診断有り」と回答した者は全体のわずか0.1%にすぎず、「疑い有り」と回答した者も0.9%と少なかった。

その他精神障害系の精神障害は、発達障害系、行動障害系、不安障害系、気分障害系の精神障害以上に少ない傾向が見られた。

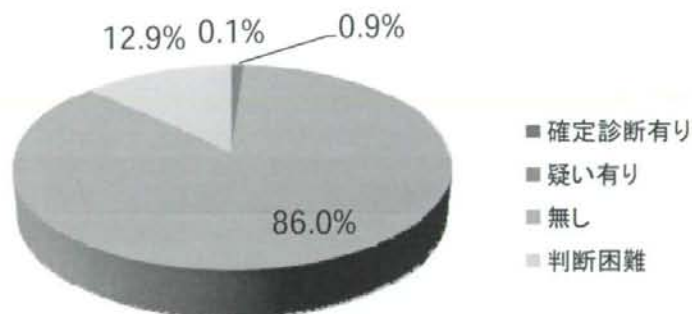


図 7-30 その他精神障害系の精神障害の状況 n=2,966

表 7- 107 その他精神障害系の精神障害の状況 n=2,966

その他精神障害系	回答数	割合
確定診断有り	3	0.1%
疑い有り	28	0.9%
無し	2552	86.0%
判断困難	383	12.9%
回答数合計	2966	

### (3) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者手帳の所持

#### ①身体障害者手帳の所持

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の身体障害者手帳の所持の状況は、「1級」が全体の0.7%、「2級」が0.1%、「3級～6級」が0.5%、これらを合計すると1.3%となった。

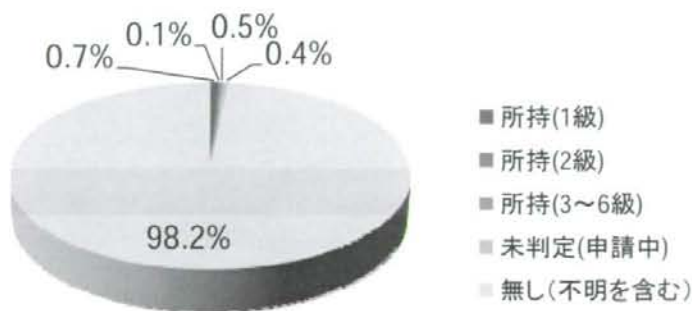


図 7-31 身体障害者手帳の所持（級別） n=2,865

表 7-108 身体障害者手帳の所持（級別） n=2,865

身体障害者手帳	回答数	割合
所持(1級)	21	0.7%
所持(2級)	3	0.1%
所持(3～6級)	15	0.5%
未判定(申請中)	12	0.4%
無し(不明を含む)	2814	98.2%
回答数合計	2865	

#### ②療育手帳（知的障害者福祉手帳）の所持

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の療育手帳（知的障害者福祉手帳）の所持の状況は、「1級」が全体の0.5%、「2級」が0.5%、「3級～6級」が0.4%、これらを合計すると1.4%となった。

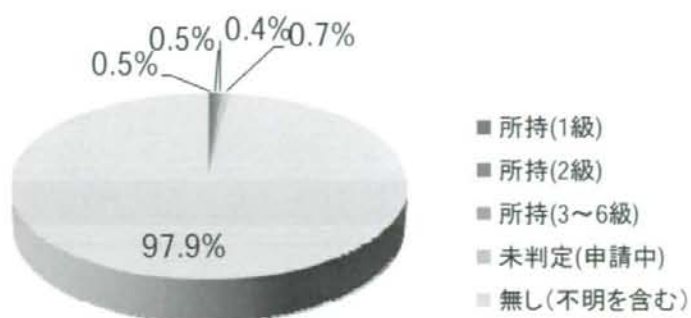


図 7-32 療育手帳（知的障害者福祉手帳）の所持（級別） n=2,864

表 7-109 療育手帳（知的障害者福祉手帳）の所持（級別） n=2,864

療育手帳(知的障害者福祉手帳)	回答数	割合
所持(1級)	13	0.5%
所持(2級)	15	0.5%
所持(3~6級)	11	0.4%
未判定(申請中)	21	0.7%
無し(不明を含む)	2804	97.9%
回答数合計	2864	

### ③精神障害者手帳の所持

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の精神障害者手帳の所持の状況は、「1級」は該当なし、「2級」はわずか1名で0.03%、「3級~6級」も該当はなく、極めて少数であった。

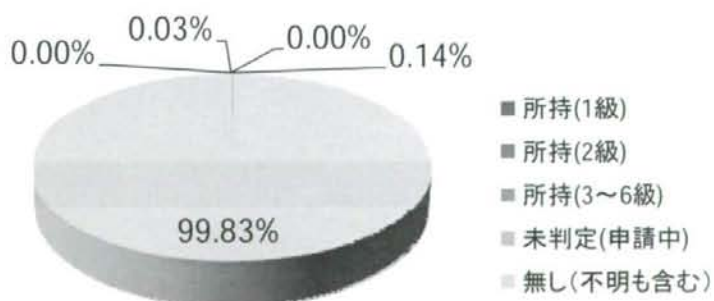


図 7-33 精神障害者手帳の所持（級別） n=2,862

表 7- 110 精神障害者手帳の所持（級別） n=2,862

精神障害者手帳	回答数	割合
所持(1級)	0	0.00%
所持(2級)	1	0.03%
所持(3～6級)	0	0.00%
未判定(申請中)	4	0.14%
無し(不明も含む)	2857	99.83%
回答数合計	2862	

#### (4) 精神科・心療内科の通院の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の精神科・心療内科の通院の有無の状況は、「有り」が全体の0.7%であった。

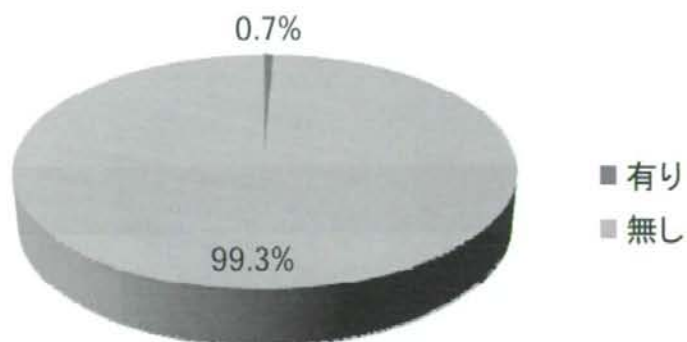


図 7-34 精神科・心療内科の通院の有無 n=2,876

表 7- 111 精神科・心療内科の通院の有無 n=2,876

精神科・心療内科の通院有無	回答数	割合
有り	20	0.7%
無し	2856	99.3%
回答数合計	2876	

(5) 精神科・心療内科での投薬の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の精神科・心療内科での投薬の有無の状況は、「有り」がわずか4名で全体の0.1%であった。

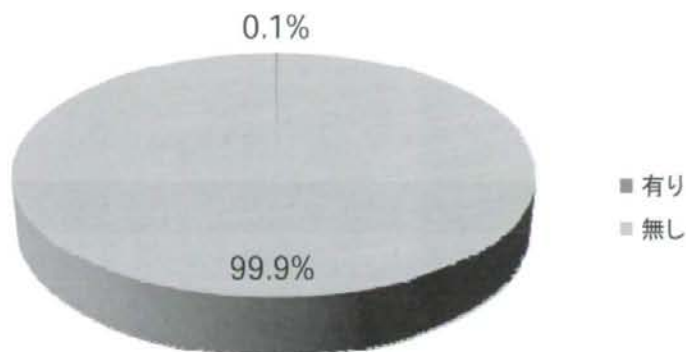


図 7-35 精神科・心療内科での投薬の有無 n=2,872

表 7-112 精神科・心療内科での投薬の有無 n=2,872

精神科・心療内科での投薬の有無	回答数	割合
有り	4	0.1%
無し	2868	99.9%
回答数合計	2872	

(6) 精神科・心療内科以外の診療科への通院の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の精神科・心療内科以外の診療科への通院の有無の状況は、「有り」が 528 名で全体の 18.2%であり、2 割弱程度の通院があった。

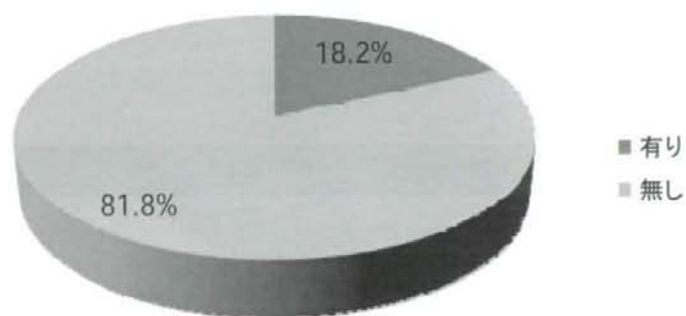


図 7-36 精神科・心療内科以外の診療科への通院の有無 n=2,898

表 7- 113 精神科・心療内科以外の診療科への通院の有無 n=2,898

精神科・心療内科以外の診療科への通院の有無	回答数	割合
有り	528	18.2%
無し	2370	81.8%
回答数合計	2898	

(7) 精神科・心療内科以外の診療科での投薬の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち、欠損値を除く乳幼児の精神科・心療内科以外の診療科での投薬の有無の状況は、「有り」が317名で全体の11.0%であった。

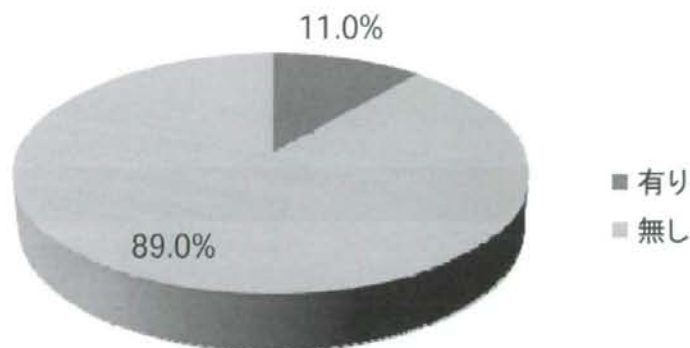


図 7-37 精神科・心療内科以外の診療科での投薬の有無 n=2,883

表 7- 114 精神科・心療内科以外の診療科での投薬の有無 n=2,883

精神科・心療内科以外の診療科での投薬の有無	回答数	割合
有り	317	11.0%
無し	2566	89.0%
回答数合計	2883	



#### (8) 施設における心理療法の実施の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の施設における心理療法の実施の有無の状況は、「有り」が 365 名で全体の 12.7%であり、1 割を超える施設で、心理療法が実施されていることが確認できた。

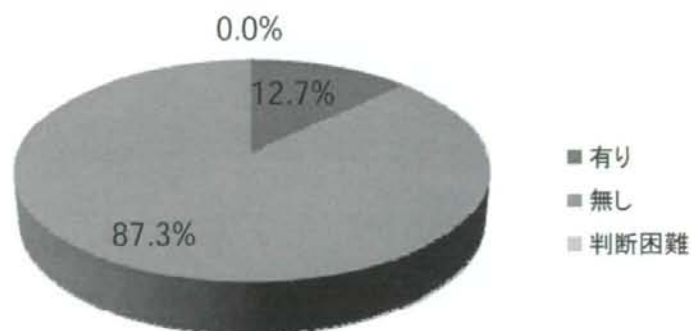


図 7-38 施設における心理療法の実施の有無 n=2,885

表 7- 115 施設における心理療法の実施の有無 n=2,885

施設における心理療法の実施有無	頻度	割合
有り	365	12.7%
無し	2520	87.3%
判断困難	0	0.0%
回答数合計	2885	

### (9) 施設外における心理療法の実施の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の施設外における心理療法の実施の有無の状況は、「有り」が34名で全体のわずか1.2%であった。心理療法は主に施設内で実施されていることが確認できた。

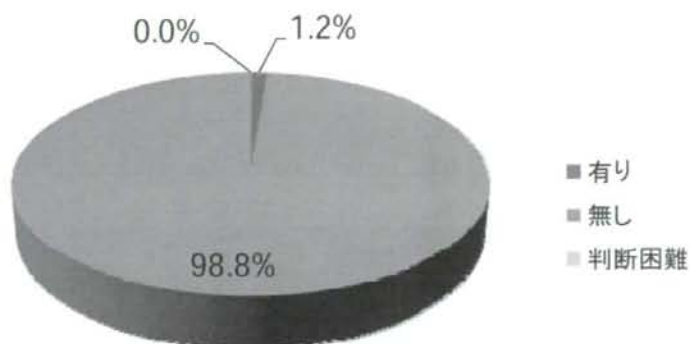


図 7- 39 施設外における心理療法の実施の有無 n=2,883

表 7- 116 施設外における心理療法の実施の有無 n=2,883

施設外における心理療法の実施有無	回答数	割合
有り	34	1.2%
無し	2849	98.8%
判断困難	0	0.0%
回答数合計	2883	

#### (10) 心理療法の必要性

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の心理療法の必要性の状況は、「有り」が472名で全体の16.5%であった。前述した「心理療法の実施」の有無と比較すると、必要性がありながら心理療法が実施されていない乳幼児が存在することが示された。

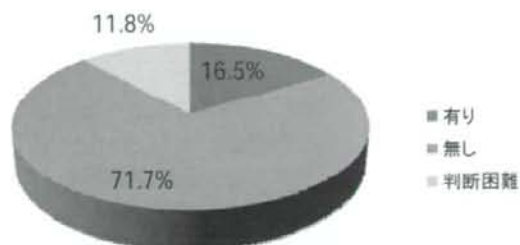


図 7-40 心理療法の必要性 n=2,861

表 7- 117 心理療法の必要性 n=2,861

心理療法の必要性	回答数	割合
有り	472	16.5%
無し	2052	71.7%
判断困難	337	11.8%
回答数合計	2861	

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の心理療法の必要性和施設内実施の有無の関係については、主観的な評価で心理療法の必要性が「有り」とされた乳幼児のうち、家族療法が「有り」である乳幼児は323名で全体の68.4%であるのに対して、「無し」である乳幼児も149名で31.6%であった。

表 7- 118 心理療法の必要性和施設内実施の有無 n=2,857

		心理療法の必要性		
		有り	無し	判断困難
施設における心理療法の実施	有り	323	19	18
	無し	149	2032	316
		472	2051	334

表 7- 119 心理療法の必要性和施設内実施の有無 (割合)

		心理療法の必要性		
		有り	無し	判断困難
施設における心理療法の実施	有り	68.4%	0.9%	5.4%
	無し	31.6%	99.1%	94.6%
		100.0%	100.0%	100.0%

### (11) 被虐待体験の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の被虐待体験の有無の状況は、「有り」が34.7%であった。この結果から、少なくとも3名に1名の乳幼児が虐待を受けた体験があることがわかった。

また、乳幼児の虐待の状況は以下のとおりであった。虐待の状況については、最も多かったのが「ネグレクト」で24.9%であり、4名に1名程度の乳幼児が経験していた。続いて、「身体的虐待」が10.1%、「心理的虐待」が3.6%、「性的虐待」が0.1%（4名）であった。

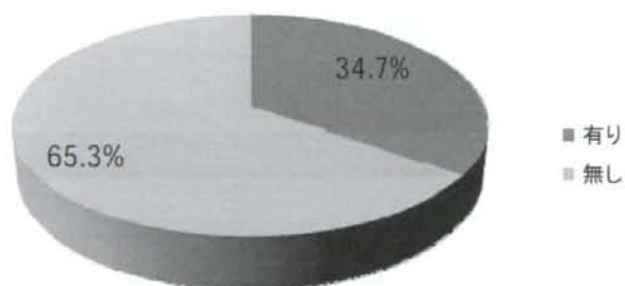


図 7-41 被虐待体験の有無 n=2,936

表 7- 120 被虐待体験の有無 n=2,936

被虐待体験の有無	回答数	割合
有り	1019	34.7%
無し	1917	65.3%
回答数合計	2936	

表 7- 121 虐待の状況 n=2,936

	回答数	割合
ネグレクト	731	24.9%
身体的虐待	296	10.1%
心理的虐待	105	3.6%
性的虐待	4	0.1%
その他	62	2.1%
判断困難	25	0.9%

### (12) 家族療法の実施の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の家族療法の実施の有無の状況は、「有り」が183名で6.3%であった。

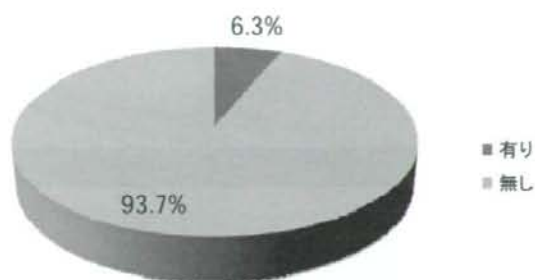


図 7-42 家族療法の実施の有無 n=2,910

表 7- 122 家族療法の実施の有無 n=2,910

家族療法の実施の有無	回答数	割合
有り	183	6.3%
無し	2727	93.7%
回答数合計	2910	

### (13) 家族療法の必要性

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の家族療法の必要性の状況は、「有り」が812名で27.8%であった。

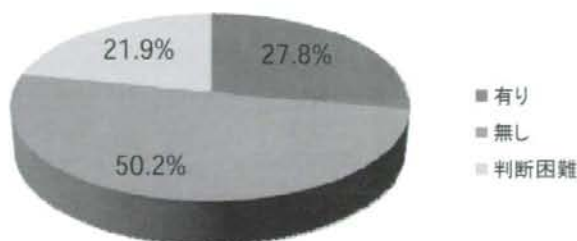


図 7-43 家族療法の必要性 n=2,916

表 7- 123 家族療法の必要性 n=2,916

家族療法の必要性	頻度	割合
有り	812	27.8%
無し	1465	50.2%
判断困難	639	21.9%
回答数合計	2916	

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の家族療法の必要性と実施の有無の関係において、主観的な評価で家族療法の必要性が「有り」とされた乳幼児のうち、家族療法が「有り」である乳幼児は177名で全体の22.0%であるのに対して、「無し」である乳幼児は628名で78.0%であった。

表 7- 124 家族療法の必要性と実施の有無 n=2,900

		家族療法の必要性		
		有り	無し	判断困難
家族療法 の実施	有り	177	1	3
	無し	628	1463	628
		805	1464	631

表 7- 125 家族療法の必要性と実施の有無 (割合)

		家族療法の必要性		
		有り	無し	判断困難
家族療法 の実施	有り	22.0%	0.1%	0.5%
	無し	78.0%	99.9%	99.5%
		100.0%	100.0%	

## 5. 乳児院におけるケアの状況等について

### (1) 主たるケア形態

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児が入所している乳児院の主体ケア形態の状況は、主たるケア形態については、「大舎制・中舎制」が82.3%、「小舎(ユニット)」が13.0%、「小規模グループケア」が3.7%、「その他」が0.9%であった。

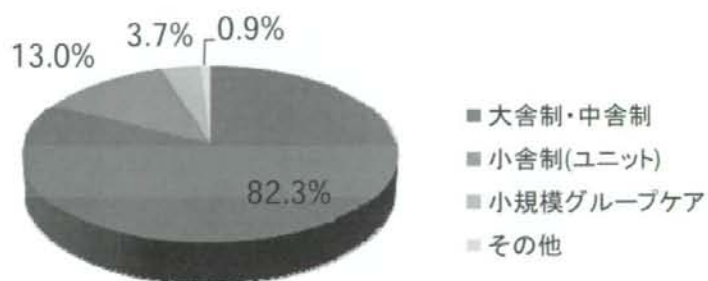


図 7-44 主たるケア形態 n=2,934

表 7- 126 主たるケア形態 n=2,934

主たるケア形態	回答数	割合
大舎制・中舎制	2416	82.3%
小舎制(ユニット)	381	13.0%
小規模グループケア	110	3.7%
その他	27	0.9%
回答数合計	2934	

## (2) ケアの担当制

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の入所している乳児院のケアの担当制は、主たるケア形態については、「単独」が 61.5%、「複数」が 27.8%、「チーム」が 10.7%であり、「単独」が 6 割を超えていることがわかった。

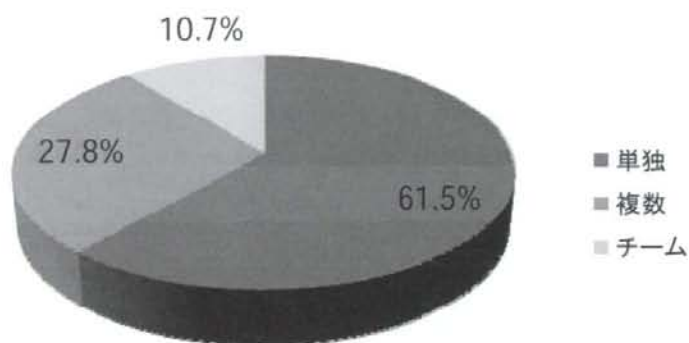


図 7-45 ケアの担当制 n=2,927

表 7- 127 ケアの担当制 n=2,927

ケアの担当制	回答数	割合
単独	1801	61.5%
複数	813	27.8%
チーム	313	10.7%
回答数合計	2927	



### (3) 勤務経験延べ年数

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児をケアしている職員の勤務経験延べ年数の平均値は10.48年であり、10年を超えた。最小値は0年（1年未満）であり最大値は40年であった。歪度は1.10で正であり、右に裾野がある分布となっていた。

表 7- 128 勤務経験延べ年数 n=2,903

平均	10.48
標準誤差	0.18
中央値（メジアン）	7
最頻値（モード）	3
標準偏差	9.91
分散	98.13
尖度	0.20
歪度	1.10
範囲	40
最小	0
最大	40
標本数	2903

### (4) ケアの適合状況

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児のケアの適合状況は、「適している」が83.3%、「適していない」が16.7%であった。

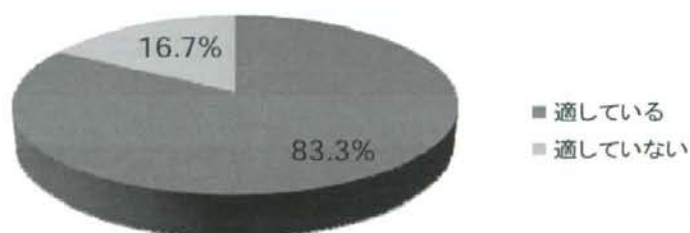


図 7-46 ケアの適合状況 n=2,903

表 7- 129 ケアの適合状況 n=2,903

ケアの適合状況	頻度	割合
適している	2436	83.3%
適していない	490	16.7%
回答数合計	2926	

(5) 適していると思われる他の施設

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について「ケアの適合状況」で「適していない」とした乳幼児が適していると思われる他の施設は、「里親の家」が最も多く147名で27.0%であった。続いて「児童養護施設」が20.4%、「家庭」が13.9%、知的障害児施設が10.5%などとなった。

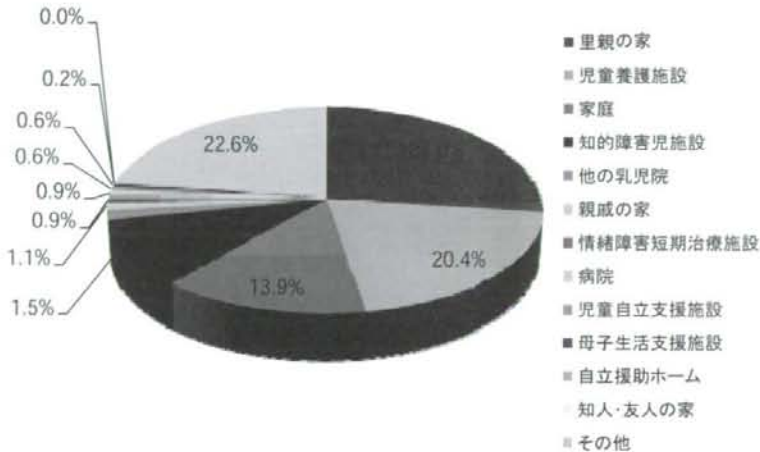


図 7-47 「適している」他の施設 n=545

表 7-130 「適している」他の施設 n=545

適している他の施設	回答数	割合
里親の家	147	27.0%
児童養護施設	111	20.4%
家庭	76	13.9%
知的障害児施設	57	10.5%
他の乳児院	8	1.5%
親戚の家	6	1.1%
情緒障害短期治療施設	5	0.9%
病院	5	0.9%
児童自立支援施設	3	0.6%
母子生活支援施設	3	0.6%
自立援助ホーム	1	0.2%
知人・友人の家	0	0.0%
その他	123	22.6%
回答数合計	545	

(6) ケア負担感による分類

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、(主観的な) ケアの負担感は、(主観的な) ケアの負担感について、「変わらない」と回答した者は 57.4%、「やや重いケア負担」と回答した者は 30.5%、「かなり重いケア負担」と回答した者は 12.1%であった。

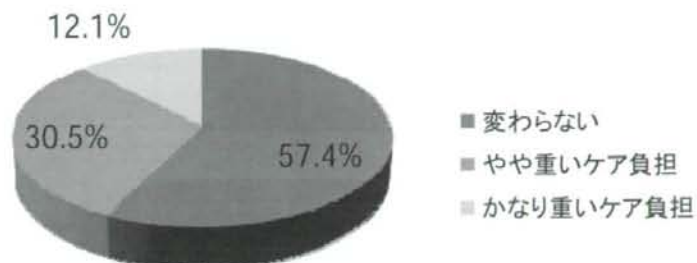


図 7-48 ケアの負担感 n=817

表 7- 131 ケアの負担感 n=817

ケアの負担感	回答数	割合
変わらない	469	57.4%
やや重いケア負担	249	30.5%
かなり重いケア負担	99	12.1%
回答数合計	817	

## 第8章 乳児院のケア実態に関するパイロット調査-入所乳幼児の状態（患者評価手法を用いて）の把握-

### 1. 調査の目的および方法

乳児院において、既に診療報酬制度で患者の評価に用いられている「重症度・看護必要度」基準をアセスメント項目とする乳幼児の状態についての調査を実施した。

この調査の対象となった乳児院は、わが国でも、とくに医療的なケアを多く提供し、ケア量が多いとされた2つの施設である。この乳児院に入所していたすべての乳児が調査対象となった。

これらの乳児の評価は、入力システムを用い、2週間にわたって毎日、看護師によって入力された。調査対象は60名で、のべ671人日分の評価データが収集された。

この671名を患者分類法<sup>(注1)</sup>を用いて乳児院の乳幼児を分類した結果、全体では、タイプ3が35名(5.2%)、タイプ4が209(31.1%)、タイプ5が427名(63.6%)でタイプ5が最も多かった。

### 2. 乳幼児の基本属性

#### (1) 性別

男性が32名(53.3%)、女性が28名(46.7%)であった。男性のほうが多かった。

#### (2) 平均年齢

0.5歳で最小は0歳、最大で6歳までの年齢分布であった。0歳が最も割合が高く71.7%、次いで1歳が18.3%であった。

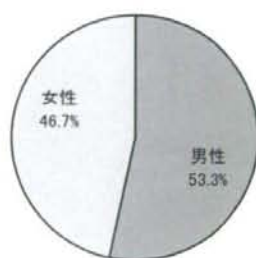


図 8- 1 性別

表 8- 1 平均年齢

平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
0.5	1.2	0	6	60